

# デジタルラジオオーディオグレード ミュージックボードはこんなに楽しい



今回の新チューナー試用は、前編（本誌6月号）と同じく村井裕氏の自宅リスニングルームにて。スピーカーにルーメンホワイト Whitelight、パワーアンプにハルクロ dm38、そしてフィデリックスのCAPRICEをコントロールアンプとして使用しチェックを行なう

「ラジオ」と聞くと、内容はともかく音質面は二の次…というイメージをお持ちではないだろうか。そんな方に向けて、かねてから高音質を謳う音楽専門の衛星デジタルラジオ・ミュージックボードによる新たな展開をご紹介！ 後編となる今回はミュージックボードでレギュラー番組を持つこの3人の、新チューナー聴き比べ鼎談をお届けする。

## ■鈴木裕／田中伊佐資／村井裕弥

まずは、従来機のアナログライン出力を強化したモデルが登場したので、その音のチェックから開始しましょう。  
鈴木 DACを使わずアナログ接続で完結させたい人もいるだろうから、要注目ですね。

## アナログ強化版チューナーで聴いたミュージックボードは？

（試聴後）

鈴木 音のザラつきがなくなって、従来モデルとは別物になりましたよ！これを10点満点とすると従来機はまだ6点くらいかな。

村井 足りなかった栄養が一気に補給さ

田中 前編のデジタル出力付きチューナーのレポート、読みましたよ。やっぱり音を出す機器にいろいろと追求できる余地があるのはいいことだね。  
鈴木 そうそう。今回はさらに別の新しいチューナーが登場するっていう。趣味性ってこうして広がっていくんだと思う。  
村井 僕の周りには、新チューナー登場を待ってミュージックボードの契約加入を控えている人が何人かいるのよ。世の中自分の知り合えばかりじゃないから、その人数×100くらいはそういう人がいる計算になる（笑）。そういう方々や、従来機を使って買い替え検討中の方々には、今回はいきつけになるかも。



●衛星デジタルラジオチューナー（アナログ強化版）  
ニュースペースデザイン NSD-100A  
オープン価格（参考売価¥49,800・税込）

本誌6月号掲載のCDT-1AM改良型(TOSリンク端子装備機)に続いて登場した、アナログライン出力強化機。DAC部及び信号切替部を、一般的な電源回路からシャントレギュレーターによる定電圧電源回路に変更している。さらにOP AMPの変更にも着手し、ナショナルセミコンダクター製LM4562を最終段に採用する。リアパネルの端子群は従来のCDT-1AMと同様で、アンプも内蔵されているが、TOSリンク等デジタル出力端子は設けられていない。機器についてのお問い合わせは、ニュースペースデザイン(☎046-293-2624)まで



NSD-100AのサイズはCDT-1AMと同様(258W×44H×181Dmm)。シャーシカラーはCDT-1AMがシルバーであるのに対し、ブラックが採用されている



後編



### ●最新型衛星デジタルラジオチューナー コンクルージョン C-T1CS

オープン価格 (参考売価¥129,800・税込)

2010年創立の新興ブランドにより、MUSIC BIRDの音質をオーディオ的に味わうべく開発された専用チューナー。DAC部にはウォルソン・マイクロエレクトロニクス製WM8741をデュアルで採用。シャーシにはアルミ製フロントパネルに真鍮削り出しの三点脚を用いるなど、コンポとしてのこだわりが買われている。機器についてのお問い合わせは、港北ネットワークサービス(☎045-507-3091)まで

※10月より出荷開始予定。仕様及び外観は改善のために今後変更になる場合があります



2系統のアナログ出力 (RCA) に加えて、3系統のデジタル出力 (同軸×1、TOS×2) を装備。さらには12.288MHz対応スーパークロック出力を持つ機器と接続可能な外部クロック入力端子 (BNC) をも備える。アナログ出力時とデジタル出力時両方に有効な48kHz/96kHzの動作モード切替えも、リアパネルのスイッチ操作で行なう

れた感じ。

田中 レンジが広がった。放送感がない…って、そんな言葉はないけど(笑)、いわゆるラジオ放送って感じじゃなく、そこでCDが鳴ってるなって雰囲気になってきた。

村井 いや、むしろCDの「ちよつと肩凝るなあ」というところがあまり聴こえない、うまいチューニングができてると思いますが。単に物理特性をよくしたとかってわけじゃないんですよ。まとめ方聴かせ方がとてもうまい。

田中 ああ、村井さんはCDの音が嫌いだから。じゃあ朗報ですね、CD否定派にとつての(笑)。

鈴木 もうCDなんて買ってる場合じゃない(笑)。次の高級チューナーにはいつそ

う期待が膨らみますね。

## 最新型チューナー

で聞いた

ミュージックバードは?

その1

「高品位な」アナログ出力

(試験後)

村井 違う筐体に入れば違う音が出るのがオーディオですけど、それにしても随分違いましたね！表現力の幅が広い。

田中 むちゃくちゃ滑らかだよ。いろいろなジャンルの音楽を聴いても。

鈴木 品位が高いですよ。

村井 弱音が増えてる楽器のニュアンスがよくわかるんですよ。聞いたところではこ

のチューナー、オーディオ機器開発に長年関わってきた技術者が手掛けたものらしいですよ。

鈴木 なるほど。まさにオーディオコンポの存在感ですね、これは。

村井 以前アキユフェーズやNECの高級チューナーでPCM放送を聴いてた方には、今のミュージックバードのチューナーはちよつと心許ないという向きもあるようで、そこを狙い打つモデルということですよ。田中 うーん、ただ僕にはちよつと音がデリケートすぎたかな。じゃあいいよデジタル出力からDACをかましてどうなっていくのか、聴いてみましょうか。

その2

「音像が濃い」デジタル出力

(試験後)

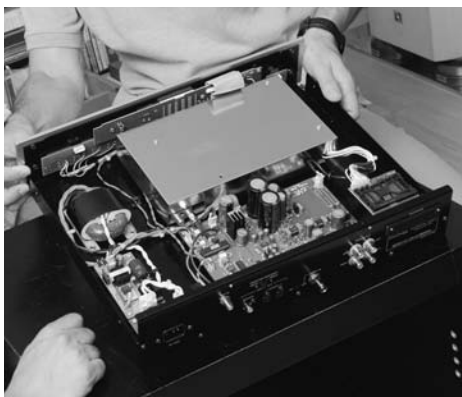
村井 乱暴な音じゃないという傾向は残りつつ…これを聴いて、さっきはまだ色がついてて聴き取れなかった部分があったなと思えました。

鈴木 よりシユアな音で、現実を引き戻される感じがあります。

田中 センターの音像が濃くなったね。力強い。

鈴木 アナログ出力だと、高級な音色感はあるけど細かいところが気になったんです。例えばヴァイオリンとヴィオラの描き分けがまだできてないかなとか。

村井 そうそう、こつちのほうが玄米を炊いたような質素なニュアンスがあるけど、



CSチューナー部とDACを含むアナログ信号系には、相互干渉を排除するためそれぞれ専用の電源トランスが搭載されている

### MUSIC BIRDとは…?

最高48kHz/16bitの高音質「音楽専門」衛星デジタルラジオ放送。クラシックファンやジャズファンに向けた専門チャンネルの他、J-POPやロック/ポップス、演歌/歌謡曲、ヒーリング、カフェ/イージーリスニングなどのジャンルが幅広く網羅されている。聴取契約時に「スタンダード(50ch)」「デラックス(100ch)」「マキシマム(156ch)」の3つのパックから選択。その際には加入料(¥1,260)と、月額聴取料(¥2,100~)が必要となる。受信に必要な専用アンテナDMB-4503(税別¥12,800)は、標準取付工事にもオプション扱い(税別¥15,000)で対応する

◎ミュージックバード カスタマーセンター

☎03-3221-9000

<http://musicbird.jp/>

### 鈴木裕・出演番組

#### 『オーディオって音楽だ!』

122ch 毎週木曜22~23時放送 毎週土曜10~11時再放送  
「音楽とオーディオ」をテーマに、いい音・いい音楽に接する楽しみを伝えていく、オーディオファンのための番組です。ソフトとハード、あるいは録音現場と再生環境などの両面を対等に意識して、音楽をかけたオーディオについてお話ししていきます。時折ゲストもお招きしますので、お楽しみに」(鈴木)

### 田中伊佐資・出演番組

#### 『ジャズ・サウンド大爆発! オレのはらわたをエグっておくれ』

122ch 毎週金曜20~21時放送 毎週日曜19~20時再放送  
「ハートにドスン! とくるジャズの優秀録音盤を紹介する1時間。基本的には新譜を中心に、リマスタリングされて蘇ったリイシューものから話題のSHM-CDやHQCDなどの高音質CDもフィーチャーします」(田中)

#### 『アナログ・サウンド大爆発! ~オレの音ミゾをほじっておくれ』

124ch 毎週土曜22~23時放送 毎週日曜9~10時再放送  
「クリアオーディオ Concept、ラックスマン PD-171 (以上アナログプレーヤー)、クリアオーディオ Concept MC、スミコ PALOSANTOS (以上カートリッジ)、EAR 834P、ラックスマン E-200 (以上フォノイコライザー) を用意して、100%アナログレコード・サウンドで展開する“徹子の部屋”的番組。毎回ゲストを招いて、愛聴盤や思い出のアルバム、珍盤、お薦め高音質盤などをかけつつお話し…が基本パターンですけど、時にはハードの話も交えながら、アナログ・サウンドをしゃぶり尽くします」(田中)

### 村井裕弥・出演番組

#### 『これだ! オーディオ術~お宝盤徹底リサーチ~』

122ch 毎週金曜18~19時放送 毎週日曜11~12時再放送  
「優秀な機器を購入する。それを自宅に招き入れ音出しをする。それで終わってしまうのなら、オーディオは趣味たり得ない。良い音を出せる人と出せない人は、どこが違うのか? ベストバイ機器に激賞アクセサリーを併用しているのに、良い音が出ないのはなぜか? そのあたりのことを本音で語り尽くす唯一のぶっちゃけオーディオ番組。8月下旬の放送では、借しまれつつ引退宣言したオーディオ評論家・高橋和正氏のお宅に押しかけ、ユニウェブとMFBについて共に語り尽くす!」(村井)



C-T1CSのサイズは大きさ430W×90H×340Dmm、重さ7.5kg。まさにオーディオコンポの存在感が漂う



付属のリモコンはCDT-1AM、NSD-100A、C-T1CSとも共通

オルソベクトラムのD/AコンバーターDAC-1を用意し、C-T1CSのデジタル同軸出力から接続。さらなるグレードアップを図る

やる気になっちゃう音なんですよ。」「そっちがこうくるなら、じゃあDACはどうしよう」って発想になってくる。

村井 そういえばこのチューナーは、アナログ出力でもデジタル出力でもサンプリング周波数96kHzが選択できるんですよ。今は48kHzだったので、ちょっと変えてみましょう。

その3  
サンプリング周波数96kHzでは?

(試聴後)

村井 音が新しく粒立ちに力があるなあ! 48kHzのほうがナチュラルかもしれないけど、96kHzははつきりモノを言っている。

田中 オーディオ的なグレードは96kHzのほうがやっぱり上ですよ。でも48kHzのザ

ラツとした感じも捨て難い。

鈴木 ヴァイオリンの音なんか若干人工的なニュアンスを感じるかも。その辺まで克明に聴かせてしまうんですよ。曲によって好みて使い分けたいですね。

村井 一点一画ごまかさずに描いている感じは共通なんですよ。

「放送の値打ちが全然違ってくる」と思っ!

村井 2モデルとも魅力があった。こんなの買っちゃったらミュージックボード聴いてる時間が倍になっちゃうよ。放送の値打ちが全然違ってくると思う。

田中 デジタル出力がない従来機を使用中のの人にとっては、アナログ回路を強化したNSD-100Aも充分買い替えを検討する余地がある。一方C-T1CSは、ポテンシャルが高いですよ。外部DACのことからデジタルケーブルやらクロックやら、微調整できるポイントが多いじゃないですか。より高い次元に持っていける可能性大です。

鈴木 電源ケーブルも替えてみるとまたおもしろそうですね。昔のFMチューナーではそんなことできなくて、そこで音がよくなるという体験が自分の中にないから。

田中 「チューナー」みんな同じ音じゃないんですよ。ただ流れているものを聴き流すんじゃないって、音の個性を引き出した演出して楽しめるポイントがラジオにもあるって、再認識しましたよ。